

## 旅客機から見る日本の名山 美しい山々を機窓から楽しむ

須藤 茂 [著]

イカロス出版株式会社  
発売日：2019年11月30日  
定価：本体1,727円＋税  
ISBN: 978-4802207553  
25.7 cm x 18.3 cm x 1.0 cm  
並製  
183 ページ



私は院生の頃から、航空機に乗るときは公私を問わず、できるだけ主翼に視界が遮られない後部の窓際の席をリクエストすることになっている。その目的は、機窓から地形や街の風景を上空から見て楽しむためである。妻からは“いい歳して、子供みたいで恥ずかしい・・・”と疎まれることがあるが、私は何を言われても決して気にとめることはない。天空からのぞき見る地表の景観はまさしく絶景であり、何ものにも代えがたい価値がある。今の時代では、ネットでGoogle Earthや地理院地図を用いればカラー版の航空写真を普通に見ることができる。最近ではドローンを使った空撮も容易になってきた。さらに撮影が容易なデジカメもあるし、スマホでも十分に綺麗な写真が撮れる。一方、私の学生の頃は、国土地理院の地図を眺めて地形を想像するか、モノトーンの航空写真を立体視するしか術がなかった。自分の目で地形を眺める機会は極めて稀であり、そのため、年間数回ほどの限られた乗機の際に、機窓から地表を眺めるのが至福の時であった。

私も機窓写真を、恐れも知らずにGSJ地質ニュースの巻頭写真に寄稿してきた経緯がある。ところが、私のとった写真の多くは意外に評判が良く、しばしば地元の博物館や図書館に掲載されているのを見かけたこともあった。また、写真の記述に関して地元自治体からの問い合わせも度々あった。

これまでの私の経験に基づくならば、航空機の狭い機窓から綺麗な写真を撮るには、高性能なカメラを使用すること以上に、運と経験が必要であると思う。運に関しては、乗機時当日の天候に恵まれること、特に雲が少なく晴れ間が多いことが重要である。特に冬場や台風一過の雨上がりの日には空気が澄んでいて、比較的鮮明な写真が撮れることが多い。また、旅客機の窓はアクリル製の多重構造に

なっており、特に外気に接する外側のアクリルが汚れていても、乗客が自ら洗浄することは出来ない。

経験に関しては、当日の航空機の飛行ルートと通過時間における太陽の位置を事前に計算して、座席を予約しておく必要がある。このように事前に座席指定できるようになったのも、ネット社会になった恩恵である。それ以前は、乗機直前に空港のカウンターに行くまで、何処の席に座るかはわからなかった。

もちろん逆光では綺麗な写真は撮れないし、午後の夕刻になると写真が赤く染まってしまう。乗機の際、座席の位置が進行方向の右側か左側か、ターゲットとなる被写体が飛行ルートの左右のどちら側に現れるかを事前に計算しておく必要もある。これについては、同じ時間帯の同じルートの航空便に何度か乗れば、概ねどのような被写体がどのようなアングルで撮れるかはある程度計算できると思う。

このような機窓写真は、しばしばSNSや書籍でも目にする事ができる。しかし、その多くは旅行ライターや素人によるものであって、プロの地質学者が自ら撮影し解説したものは貴重である。須藤 茂氏は1976年に工業技術院地質調査所に入所後、長らく火山防災や地熱研究に従事してこられた。2011年に産総研を退職され、その後は地質標本館のシニアリサーチャーとして長らく活躍してこられた。この間に地質ニュースの編集長も担当されておられたと記憶している。ちょうどその頃に、“日本の機窓から”と題する5回のシリーズ原稿を執筆されたが(須藤, 2009など)、これが本書の原案になっていると私は想像している。

彼は文字通り地質および火山のエキスパートであり、そのため山、特に火山の地形にはとても詳しい。この度、彼が長年にわたって機窓からこれまで撮影してきた山々の



写真を整理して、新たに書籍を出版されたので、皆様にもご周知したいと思う。実はこれまでも、須藤さんの書かれた「世界の火山図鑑 写真からわかる火山の特徴と噴火・予知・防災・活用に」という普及書(須藤, 2013)の紹介をGSJ地質ニュース誌上で行わせて頂いたことがある(七山, 2014)。彼は研究者としても一流であったが、その時間の合間を見て行う広報やアウトリーチ活動にもたいへん積極的であった。我々現役のGSJ研究者が手本とすべき、志を持ったOBのお一人だと思う。

本書には須藤さんが日本全国で自らのカメラで撮影した236枚の機窓写真が各飛行ルートに沿って掲載されており、それぞれの画像にある山々について、地質学的視点からの解説文が添えられている。

巻末にある、撮影余話は須藤氏の機窓撮影への拘りを感じさせるものであり、今後撮影を志される方の参考になると思う。さらに、本書に記載された山名のリストも付属されており、山名から写真を検索できるようになっている。

なお、イカロス出版は、航空定期誌である「AIRLINE」の他、航空機関係の書籍やジャーナルを専門的に出しており、本書の内容に近い「機長の絶景空路 羽田=札幌・大阪」(杉江, 2015)という書籍も既に出版されている。本書は

タイトル通り元JALの機長が書かれた機窓ガイドブックであり、機長の目から見た羽田～札幌間および羽田～大阪間のフライト中の絶景ポイントが詳しく記されている。この2冊を合わせ読むと、おそらくどなたでも素晴らしい機窓写真を撮影できると私は思う。

## 文 献

- 須藤 茂 (2009) 日本の機窓から (1) 北アルプスと白山. 地質ニュース, no. 656, 5-8.
- 須藤 茂 (2013) 世界の火山図鑑: 写真からわかる火山の特徴と噴火・予知・防災・活用について. 誠文堂新光社, 223p.
- 杉江 弘 (2015) 機長の絶景空路 羽田=札幌・大阪. イカロス出版, 145p.
- 七山 太 (2014) 書籍紹介 世界の火山図鑑: 写真からわかる火山の特徴と噴火・予知・防災・活用について. GSJ地質ニュース, 3, 223.

(産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門 七山 太)